

2008 年後期岡山プログラム小委員会 抄録

日時:2008 年 5 月 15 日

場所:KKR ホテル東京

時間:12:30-17:00

出席:比田井、青木、中村、伊藤、木下、西浦、山下、柳澤(文責)

Ex.Officio:吉田

1. 前委員会の議事録確認

- ・ 議事録が配布され、承認された。

2. ステータス報告

吉田観測所長より観測所ステータス報告がなされた。

- ・ 人員:
 - ・ 今年度に入っても総数は変わらない。
 - ・ 事務係長が交代した。
 - ・ 岩田助教が4月から7月までの予定でカナダに長期出張。
 - ・ 大塚研究支援員が6月から米国 STScI へ PD として異動する。研究支援員の補充は検討中。
 - ・ 6月から黒田大介(現・石垣島天文台研究員)が特定領域(ガンマ線バーストで探る太古の宇宙)付き研究員となる。
- ・ 天候:
 - ・ 冬は天気が安定していたので、快晴 30%、観測可能夜 6 割が続いた。
 - ・ 4月になって天候がやや悪化し快晴は 20%弱、観測可能夜は 5 割を下回った。
 - ・ 観測報告書の観測達成率は 7 割程度。
- ・ 査読論文数:
 - ・ 2007 年度は 8 本(Published のみ)。例年は 10 本程度。2006 年度は 4 本だけで心配したが回復傾向にある。
 - ・ これまでに Submitted, Accepted された論文は現時点で 3 本把握している。
- ・ 学位論文:
 - ・ 修士 4 本、博士 1 本で、これは例年通り。
- ・ 予算:
 - ・ 相変わらず厳しい。ドームスリットワイヤーの交換、ISLE の検出器 Science Grade 購入予算は認めてもらったが、それ以外の予算は数百万減らされた。

- ・ 観測装置:HIDES Mosaic 化に成功。1月から共同利用にだして、順調に稼働。大きなトラブルはなし。ISLE, KOOLS ともに順調。
- ・ 望遠鏡:大きなトラブルはなし。小さいトラブルはあるが、それぞれ観測者がその場で解決できる類のものがほとんど。

3. 研究課題申し込み状況の確認

- ・ 申請カテゴリー別:プロジェクト(継続)1件(35.0 夜)、学位支援プログラム(継続)1件 (10.0 夜)、一般 16 件 (151.5 夜)、合計 18 件 (196.5 夜)
- ・ 分野別:Solar System 2, Stars 12, Star formation 0, Interstellar 1, Galactic 2, Extragalactic 0, Instrument 0, Other1
- ・ 装置別: HIDES 11, ISLE 1, KOOLS 3, HBS 3

4. 共同利用夜数の決定

協議の結果、観測所側からの提案どおり 107 夜とした。

- ・ 共同利用期間(7月22日～12月25日) 157 夜
- ・ 共同利用観測に提供可能な夜数: 107 夜
- ・ 観測所時間等の要求合計夜数: 50 夜
特別観望会: 1, 全国物理コンテスト物理チャレンジ観望会: 1, 観測所整備期間:14, エンジニアリングタイム:15(HIDES 4, ISLE 6, KOOLS 4, HBS: 1(HBS の課題が採択されたら)), 日韓共同惑星探査計画: 9, 観測所時間(サイエンス):10

5. プロジェクト観測の審査

- ・ 2年目の後半。順調にすすんでいてよい。成果が上がっていることが確認できる
- ・ Mosaic 化に伴い CCD が 3 つになったので彩層活動のチェックが同時にできて観測効率が向上している
- ・ 35 夜、要求通り与える。

6. 学位論文支援プログラム(継続)の審査

- ・ 前期に天気が悪くて今期 10 日を申請している。
- ・ M2 なので今度の観測が最後。
- ・ 継続で認める。10 夜与える。

7. 一般観測の審査

議論を経て、以下の研究課題を採択することになった。

表1:採択研究課題と割り当て夜数

課題 No.	氏名	研究課題	夜数
08B-P01	佐藤文衛	視線速度精密測定によるG型巨星の惑星サーベイⅡ	35
08B-S01	亀浦陽子	強輻射場における星間偏光特性:塵粒子整列機構の観測的検証	10
08B-01	竹田洋一	A型星の高S/N比高波長分解能分光	6
08B-02	竹田洋一	近赤外観測に基づく太陽類似星の恒星活動に関する統計的研究	10
08B-03	安藤裕康	G型巨星の星震学ー惑星をもつ親星への応用ー	9
08B-06	藤原英明	新しいベガ型星候補天体の可視光分光観測	5
08B-07	亀田真吾	水星外圏ナトリウム大気光観測	未定
08B-08	長谷川隆	KOOLS study of very rare evolved stars in an old open cluster	4
08B-09	伊藤洋一	ドップラーシフト法による連星系の系外惑星探査	12
08B-10	成田憲保	大離心率トランジット惑星HD17156bの大きな公転軌道傾斜角の確認	3
08B-15	葉山優希子	全天の測光カタログから検出した褐色矮星候補天体の可視分光観測	7
08B-16	椎名理恵	アルゴル型食連星の偏光分光観測ーRY Perの主星周辺物質の空間分布ー	6

- ・ 亀田氏の研究課題について
 - ・ 日中、水星の観測を行うとする研究課題である。レフェリーから夜間シーイングへの影響について心配が寄せられたが、「日中ドームスリットを開放しても、夜間シーイングには大きな影響を与えない」ことが以前の観測から明らかとなっている、ことを確認した。
 - ・ 以下の2つを条件として研究課題を採択する。
 1. 昼間と夜間の観測者の交代時刻を日の出、日の入りとすること。
 2. やむを得ず観測所が保守作業を必要とした場合は、観測を中止しこれに協力すること。
 - ・ 割り当て日数は、当該研究を行うために必要な日数を与えるように留意するが、

最終的にはスケジュール編成の都合で決められる。

8. その他

- ・ 学位論文と当該観測の関連

学位論文にチェックを入れたら、学位論文の完成に当該観測がどれほど必要なのか記述してほしい。Call for proposal に Thesis と、今回の観測との関連性を明確に書くように、記述する。

- ・ AB 等級と Vega magnitude

KOOLS の検出限界は AB 等級で書いてある。銀河観測者以外は使わない単位なので AB 等級と Vega 等級の変換が分かるように HP に記述する。もしくは変換テーブルにリンクを張る。

- ・ PI 匿名制度

PI 匿名審査についてのアンケート結果をまとめて UM で発表する。